

「魔女の宅急便」など 児童文学作家 角野栄子さんに聞く

「魔法」は自分の中に

「魔女の宅急便」や「小さなおぼけ」シリーズの作者で知られる児童文学作家の角野栄子さん(89)の記録映画「カラフルな魔女」角野栄子の物語が生まれる暮らしが、各地で公開されています。90歳を前にしてなお、精力的に書き続ける等身大の姿を映します。「魔法」ってだれもが自分の中に持っていると思うの。好きなものを見つけてコツコツ続けられれば、その人の魔法になる」と話しています。

89歳、等身大の姿 記録映画公開

—どうして作家になったのですか。
 —の体験について、大学時代の先生に本にしらないかとすすめられて。書き始めたので。とすめられて。書き始めるとだんだんおもしろくなって、この先もずっと書いていきたいと思っ

たの。本が大好きな子どもだったそうですね。「幼いころは5歳で母を亡くして、戦争も体験したから、あまり幸せじゃなかった。つらい気が本だったの。本を読む



かどの・えいこ 1935年東京都生まれ。ノンフィクション「ルイジニョ少年」を雑誌「たずねて」で作家デビュー。翻訳作品も手がける。代表作「魔女の宅急便」はアニメ映画化された。2018年に「児童文学のノーベル賞」といわれる国際アンデルセン賞の作家賞に選ばれた。

「今の子どもたちを見てみると与(あた)えられることが多いように思う。だから『魔法の文学館』に来たら、自分で本を選ぶということをやってほしい。感想も一つじゃないはず。自分で判断(はんだん)して、自分の言葉で話せる強さを持ってほしいです」と語る角野さん

と、落ち葉が肥料(ひりょう)となるように、自分の中に言葉がたくわえられて、やがて生きる力になる。自由に感じたり、想像(そうぞう)したりすることのできる尊(とうと)さは今でも大切にしています」

—昨年11月には角野さんの世界観を体験できる「魔法の文学館」(東京都江戸川区)がオープンしました。角野さんにとって「魔法」とは。

「喜びから生まれるもので、だれもが一つは持っていると思うの。わたしにとっては書くことが魔法。『自分にはない』と思ったら、心を自由に、新しいことに挑戦(ちせん)してみたい。知りたいとか心がさわぎ始めたらしめたもの。努力を積み重ねていけば、それはその人の一生の魔法になるんじゃないでしょうか」

新築のお家で盛り上がりよう!

全棟建て替えリニューアル オープンフェア 開催中

家を建てたいというご家族も
 まずは最新の家を見てみたいだけでも
 家族で楽しめるイベント盛りだくさん

一条工務店仙台 セキスイハイム東北 スモリ工業 東北ミサワホーム
 セルコホーム クレバリーホーム イシカワ
 北洲ハウジング 桧家住宅 大和ハウス工業 一条工務店宮城
 住友不動産 GLホーム 住友林業
 ウンノハウス トヨタホーム 積水ハウス 日本ハウスHD
 スウェーデンハウス アイ工務店 アイフルホーム

総合住宅展示場
 仙台・名取ハウジングモール
ジラス

パワパトロールがやってくる!

チェイス・スカイ撮影会 参加無料

※当日 10:00~受付開始
 ※整理券制
 ※バラエティーショーではありません
 ※受付場所 センターハウス

会場
 センターハウス前

開催時間
 ①11:00~
 ②13:00~
 ③15:00~
 各回 40組 **10±**

※安全対策を考慮した運営をしています。
 ※撮影の事情により、時間・内容が中止となる場合があります。
 ※撮影会時、他のお客様の取り込みにご配慮いただけますようお願いいたします。
 他のお客様の取り込みがあった場合、その写真をSNSやインターネットへ掲載することは控えていただけますようお願いいたします。